

2013年1月21日

株式会社 富士経済  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
12-5 小伝馬町YSビル  
TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>  
広報部 03-3664-5697



顔用の化粧品、一般用医薬品、美容機器・器具、化粧雑貨

## セルフフェイスケアの国内市場を調査

－ 2012年見込（前年比）－

セルフフェイスケア市場：1兆9,516億円（0.3%増） 市場の9割を占める化粧品が復調  
⇒シワ・ハリ対策：5,002億円（2.3%増） 化粧品が伸長、美容機器・器具も下げ止まり  
⇒オーガニック素材由来成分（化粧品）：159億円（6.7%増） 海外に加え国内ブランドも増加

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、2012年10月から12月にかけて、化粧品、一般用医薬品（外用）、美容機器・器具、化粧雑貨の各領域において、顔用商品を“セルフフェイスケア”と定義し、国内市場を調査した。

その結果を報告書「セルフフェイスケアトレンドデータ 2012-2013」にまとめた。

この調査では、セルフフェイスケア対象商品をその領域を問わず「シワ・ハリ対策」「シミ・シバカス対策」といったコンセプト別に分類し、各市場の現状と今後の展望を分析した。さらに、化粧品については、「ヒアルロン酸」「コラーゲン」といった成分別にも分析を行った。

### <調査結果の概要>

商品領域	2011年	2012年見込	前年比
化粧品	1兆7,880億円	1兆7,909億円	100.2%
一般用医薬品	214億円	224億円	104.7%
美容機器・器具	407億円	410億円	100.7%
化粧雑貨	965億円	974億円	100.9%
セルフフェイスケア 合計※	1兆9,466億円	1兆9,516億円	100.3%

※各商品領域を億円単位で四捨五入しているため、必ずしも合計とは一致しない。

セルフフェイスケア市場は、2011年に前年比0.7%減の1兆9,466億円となった。東日本大震災の影響を受けて市場の9割以上を占める化粧品が落ち込み、全体の縮小に繋がった。

2012年は、化粧品の復調に加え、化粧品以外の商品領域においてもプラスとなることから、前年比0.3%増の1兆9,516億円が見込まれる。

#### 1. 化粧品

2011年の化粧品市場は、震災後に通販チャネル展開企業がインフォーマーシャルやメールマガジンなどの発信を自粛したことなどを要因に、前年比0.8%減となった。

2012年は、通販の実績が回復していることから前年比0.2%増が見込まれる。しかし、マルチパーパスゲルやBBクリームといった複数品目の機能を併せ持つ商品が好調なことや、低価格セルフブランドへ需要シフトしていることから、市場規模としては2010年の水準に届かない見通しである。

成分別に見ると、上位を占めているのはヒアルロン酸とコラーゲンであり、いずれもアンチエイジング訴求のスキンケアを中心に配合されている。好調なマルチパーパスゲルやBBクリームへの配合も進んでいる。既存ブランドと差別化を図るためにアンチエイジングを訴求した新商品投入が相次いでいることで、この2成分の存在感が増している。

## 2. 一般用医薬品

一般用医薬品市場は4商品領域中で最も規模が小さいものの、近年プラスを維持している。

2010年は、有効成分が日本皮膚科学会の推奨度Aとされた「リアップ」(大正製薬)が牽引して前年比8.9%増となった。2011年から2012年にかけては、荒れ肌対策の皮膚治療薬「IHADA」(資生堂薬品)や頭皮湿疹用薬「メンソレータム メディクイックH」(ロート製薬)など、新たな訴求を行った商品が相次いで投入されていることが、一般用医薬品市場の拡大に繋がっている。

## 3. 美容機器・器具

美容機器・器具市場は、エステサービスなどの自粛と家庭でのセルフケア意識の高まりを背景に、2009年に前年比26.2%増と急拡大した。しかし、ムック本に添付して販売する手法の広がりと共に低価格化・一般化も進み、2011年は前年比4.5%減となった。

地デジ化や家電エコポイント制度終了後の商材として家電メーカーや家電量販店が“美容家電”への注力度を高めていることに加え、大手メーカーの同分野への本格参入が相次いでいることから、2012年は反転が見込まれる。

## 4. 化粧雑貨

化粧雑貨市場は、二重まぶた用化粧品が堅調なことに加え、より目元を強調したメイクアップがトレンドとなりアイラッシュの需要が急増したことで、2010年以降拡大が続いている。

アイラッシュの需要は飽和してきており市場全体の拡大幅は縮小しているものの、熊野筆に代表される高級フェイスブラシが、2011年にサッカー日本女子代表へ国民栄誉賞の副賞として贈呈されたことで注目され需要を獲得しており、市場を下支えするとみられる。

### <注目コンセプト市場：シワ・ハリ対策>

商品領域	2011年	2012年見込	前年比
化粧品	4,534億円	4,647億円	102.5%
美容機器・器具	357億円	355億円	99.4%
シワ・ハリ対策 合計	4,891億円	5,002億円	102.3%

シワ・ハリ対策は、加齢に伴う症状の予防・改善を謳ったスキンケアをはじめとする化粧品と、スチーマー・ミスト、ローラーなどの美容機器・器具を対象とした。市場全体の9割以上を化粧品が占めている。

化粧品市場は、40代を迎えた団塊ジュニア世代のアンチエイジング意識が高まっていることや、少子高齢化を背景に30代以上を対象とした新ブランドの投入・リニューアル時にアンチエイジングへ訴求変更するブランドが増加していることなどを要因に拡大が続いている。

化粧品市場の拡大幅は徐々に縮小しているものの、2011年は「乾燥による小じわを目立たなくする」という効能表記が認められたことも寄与して、前年比4.1%増となった。スキンケアだけではなく、ベースメイクやリップカラー/リップクリームなどからも、シワ・ハリ対策を訴求した商品が増えている。2012年は、前年比2.5%増が見込まれる。

美容機器・器具市場は、初期需要の一巡や低価格化などを要因に2010年以降伸び悩んでおり、2011年も前年比6.3%減となった。しかし、“美容家電”が活況を呈していることで、2012年は下げ止まる見込みである。“美容家電”の中ではスチーマーが効果・実感の得られやすいことで好調に推移している。

### <成分別市場：オーガニック素材由来成分(化粧品)>

2011年	2012年見込	前年比
149億円	159億円	106.7%

オーガニック素材由来成分は、オーガニック認定を受けた成分を配合しているスキンケア、ベースメイク、ポイントメイク、ヘアケア、メンズコスメティックスなどの化粧品を対象とした。

オーガニック素材由来成分を配合した化粧品は、消費者の安心・安全志向、自然志向の高まりや通販の普及を背景に、自然派訴求の化粧品として需要を獲得している。2011年の市場は前年比8.0%増となり、2012年は同6.7%増が見込まれる。

スキンケアが市場全体の7割以上を占めており、スキンケアを多く取り揃えるブランドのシェアが高くなっている。海外ブランドが多い中、近年では国内ブランドも増えている。これに伴い、販売チャネルも通販やブランド直営店、バラエティショップなどに加えて、ドラッグストアなどにも広がっている。

<調査対象>

セルフフェイスクア対象商品			
化粧品	一般用医薬品（外用）	美容機器・器具	化粧雑貨
スキンケア、ベースメイク、ポイントメイク、ヘアケア、メンズコスメティックス他	ニキビ用薬、育毛剤、口唇・口角炎治療薬、口唇ヘルペス治療薬、皮膚治療薬（顔用・頭皮用）	スチーマー・ミスト、超音波美顔器、イオン導入・導出器、レーザー美顔器、毛穴吸引器、複合機能訴求器、ローラー、フェイスマッサージ用ツール	二重まぶた用化粧品、つけまつげ（アイラッシュ）、アイラッシュカーラー、化粧筆・チップ・パフ類、化粧綿・あぶらとり紙、眉用ハサミ・毛抜き、ディスプレイカミソリ、替刃・シェーバー、鼻毛カッター

コンセプト別	シワ・ハリ対策、シミ・ソバカス対策、毛穴ケア、ニキビケア、アイケア、頭皮ケア、内外美容訴求、50代以上向け化粧品、超高価格化粧品
成分別 (化粧品のみ)	コラーゲン、ヒアルロン酸、コエンザイムQ10、エラスチン、アスタキサンチン、レチノール（ビタミンA）、プラセンタ、ビタミンC（誘導体）、アルブチン、独自美白有効成分、AHA（フルーツ酸）、オーガニック素材由来成分、はちみつ・ローヤルゼリー、抗糖化成分、レスベラトロール

<調査方法>

富士経済専門調査員による対象企業及び関連企業・団体等へのヒアリング調査

<調査期間>

2012年10月～12月

以上

資料タイトル	「セルフフェイスクアトレンドデータ 2012-2013」
体裁	A4判 247頁
価格	100,000円（税込み105,000円） PDF/データ版 110,000円（税込み115,500円） 書籍版・PDF/データ版セット 120,000円（税込み126,000円）
調査・編集	富士経済 東京マーケティング本部 第一統括部 第二部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル TEL:03-3664-5811(代) FAX:03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL: <a href="http://www.group.fuji-keizai.co.jp/">http://www.group.fuji-keizai.co.jp/</a> <a href="https://www.fuji-keizai.co.jp/">https://www.fuji-keizai.co.jp/</a>

※<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/> はデザインを一新し、ユーザビリティを向上させました。ぜひご利用ください。